

ワンセグニーズ調査結果（地方公共団体と一般視聴者の比較）

「地方公共団体」及び「一般視聴者」からのアンケート結果のうち、特徴があると思われるものについて、比較を行った。

大規模な災害が発生した場合の災害情報に関して、地方公共団体が考える伝達手段と、一般視聴者が考える入手手段について比較を行った。

地方公共団体は、図 1-1 のとおり、大規模な災害発生時の有効な情報伝達手段として、自治体が自ら整備している「防災行政無線」を 1 番に考えているが、一般視聴者は、図 1-2 のとおり、7 番目となっており、自治体と一般視聴者との考え方に差がある結果となった。それ以外については、地方公共団体及び一般視聴者ともに放送メディアへの有効性が高いと認識されている。

ワンセグ放送は、放送が開始されて 2 年も経たないにもかかわらず、テレビ放送と同様に有効と認識されている結果となり、ワンセグ放送は放送メディアの 1 つとして成長してきていると考えられる。

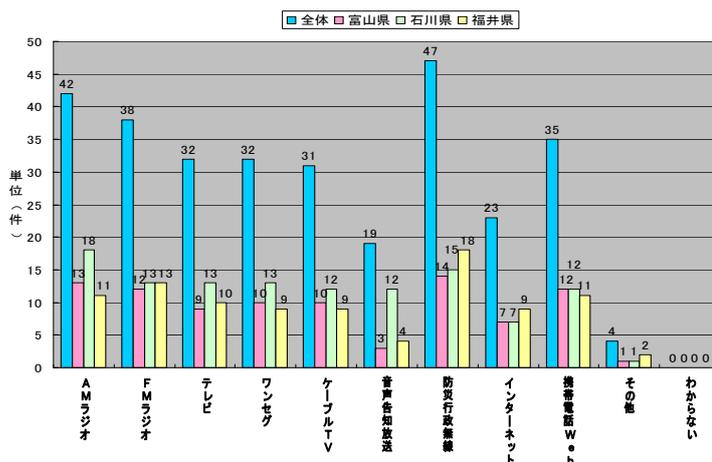


図 1-1 地方公共団体が考える伝達手段

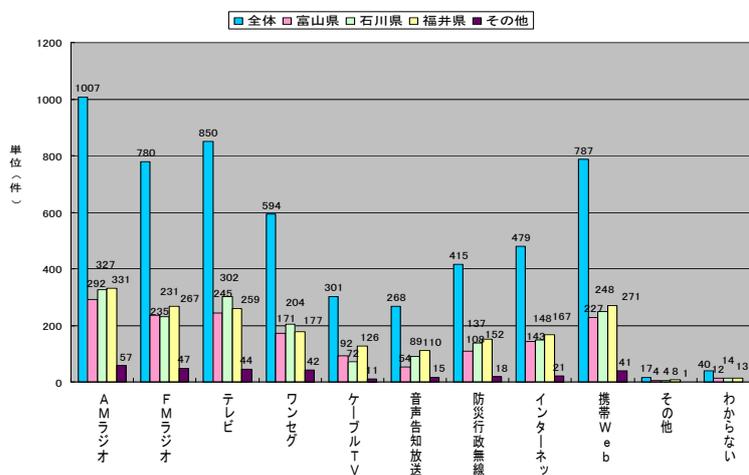


図 1-2 一般視聴者が考える入手手段

大規模な災害が発生した場合に地上デジタル放送を用いて、地方公共団体が提供したいと考える情報と、一般視聴者が提供を受けたいと考える情報について比較を行った。

図 2-1 及び図 2-2 のとおり、地方公共団体及び一般視聴者ともに「被害情報」、「避難場所・炊き出しの場所・時間」、「給水場所・時間」の順になっており、地域のきめ細かな情報提供を電波メディアにより期待していることがうかがえる。

「安否情報」については、地方公共団体と一般視聴者で順位に差がある結果となったが、これは、一般視聴者は電波メディアを使って提供してほしいという考えに対して、地方公共団体は、個人情報の保護の観点及び電気通信事業者が行っている「災害伝言ダイヤル」など、地上デジタルテレビ放送以外のメディアでの提供を確立されていることから、優先順位の位置付けに違いがあるものと推測される。

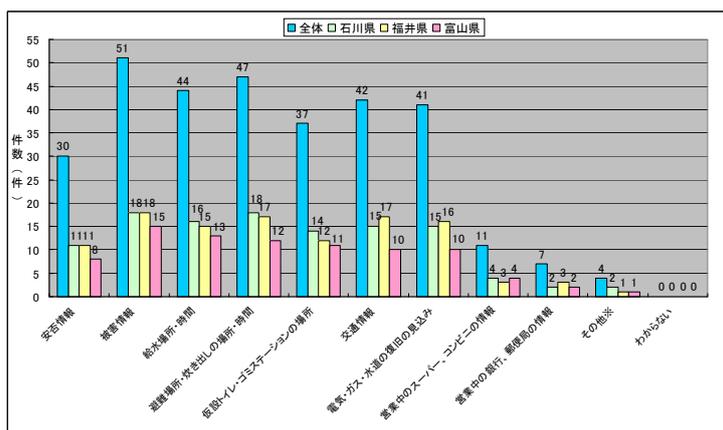


図 2-1 地方公共団体が提供したいと考える情報

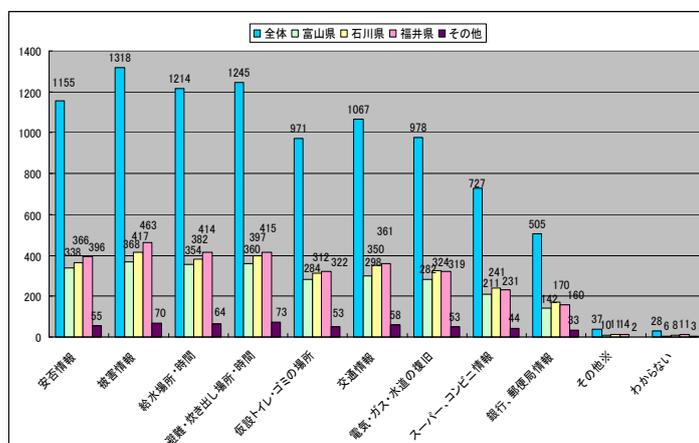


図 2-2 一般視聴者が提供を受けたいと考える情報

電波で地上デジタル放送が受信できない（カーナビやワンセグ対応携帯電話で地上デジタル放送が視聴できない）観光地（地域）に対して、地方公共団体及び一般視聴者が持っているイメージについて比較を行った。

地方公共団体に対しては「観光地」、一般視聴者に対しては「地域」と異なる設問のため、回答ニュアンスに違いがあるかもしれないが、比較を行った。

図 3-1 及び図 3-2 とおり、地方公共団体及び一般視聴者ともに「不便な土地」のイメージが一番強く、次に「過疎地」「田舎」のイメージがほぼ同順位で続き、電波で地上デジタル放送が受信できないことを、マイナスイメージで捉えていることがうかがえる。

また、少数ながらも、地方公共団体及び一般視聴者ともに「静か・リラックスできる」、「のんびりしている」などのプラスイメージで捉えていることがうかがえる。

このことから、地方公共団体及び一般視聴者ともに同じようなイメージを持っていることがうかがえる。

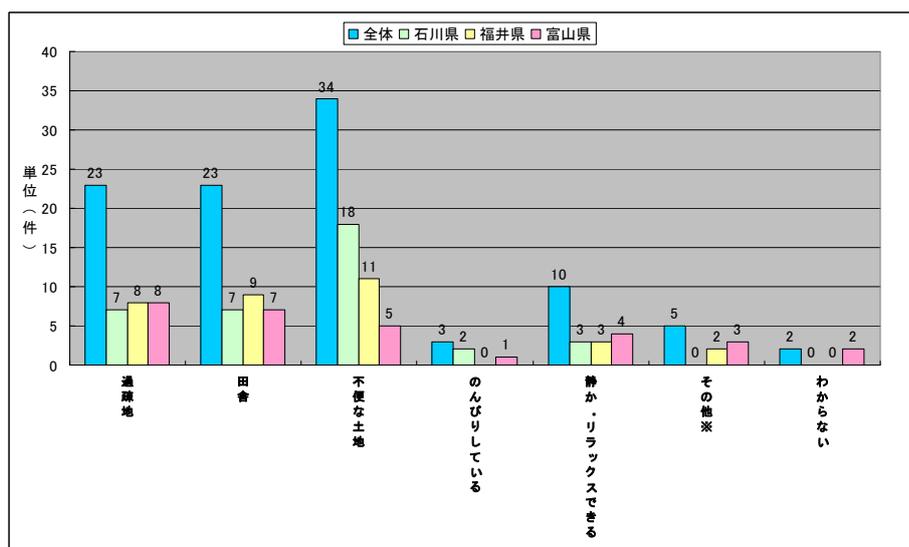


図 3-1 地方公共団体が持っているイメージ

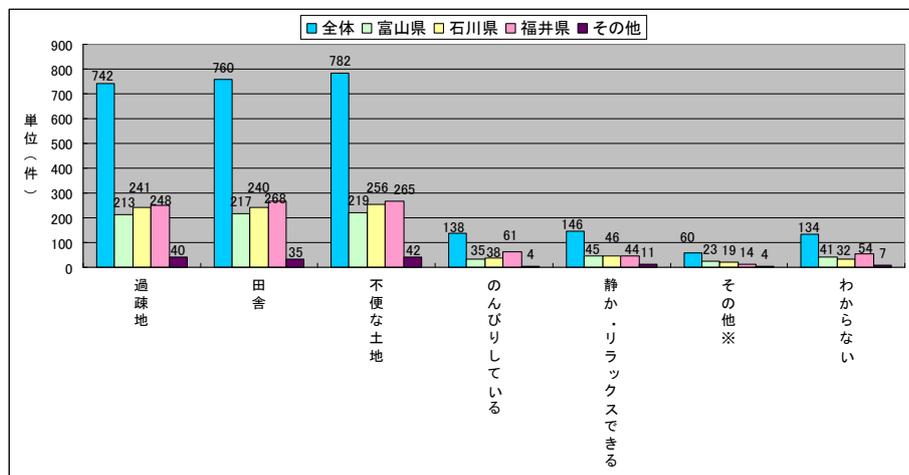


図 3-2 一般視聴者が持っているイメージ

ワンセグ向けの独自番組を用いて、地方公共団体が提供したいと考える情報と、一般視聴者が提供を受けたいと考える情報について比較を行った。

図 4-1 及び図 4-2 のとおり、地方公共団体は、「防災情報」が最も多く、次いで「災害情報」、「行政・福祉情報」の順で多く、地方公共団体は非常災害時における情報提供のほか、地域に密着した情報提供を行いたいと考えていることが分かった。

一般視聴者は、「災害情報」が最も多く、続いて「地域情報」、「防災情報」の順で多く、一般視聴者も非常災害時における情報や地域に密着した情報を求めていることが分かった。

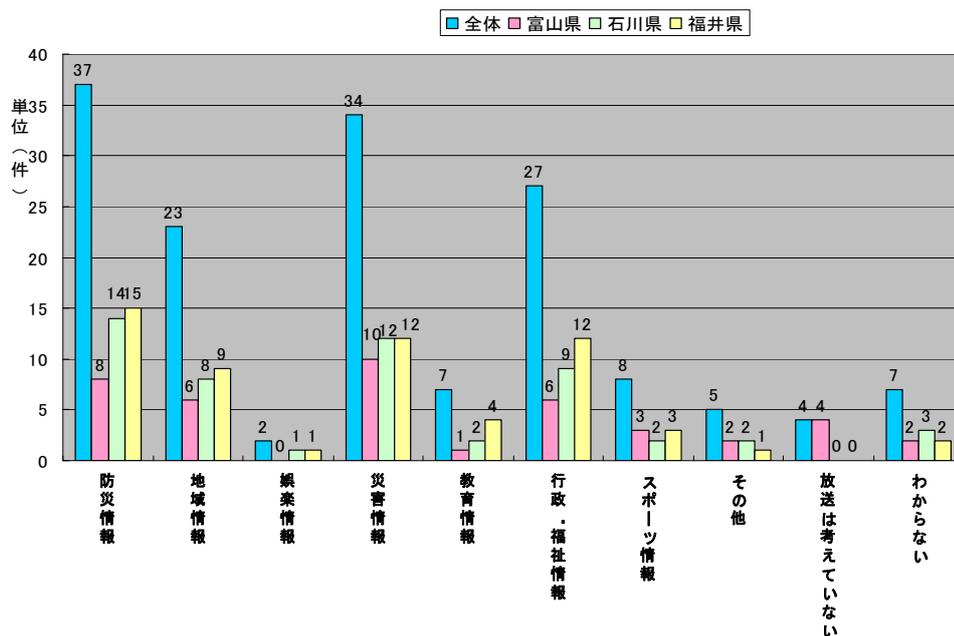


図 4-1 地方公共団体が提供したいと考える情報

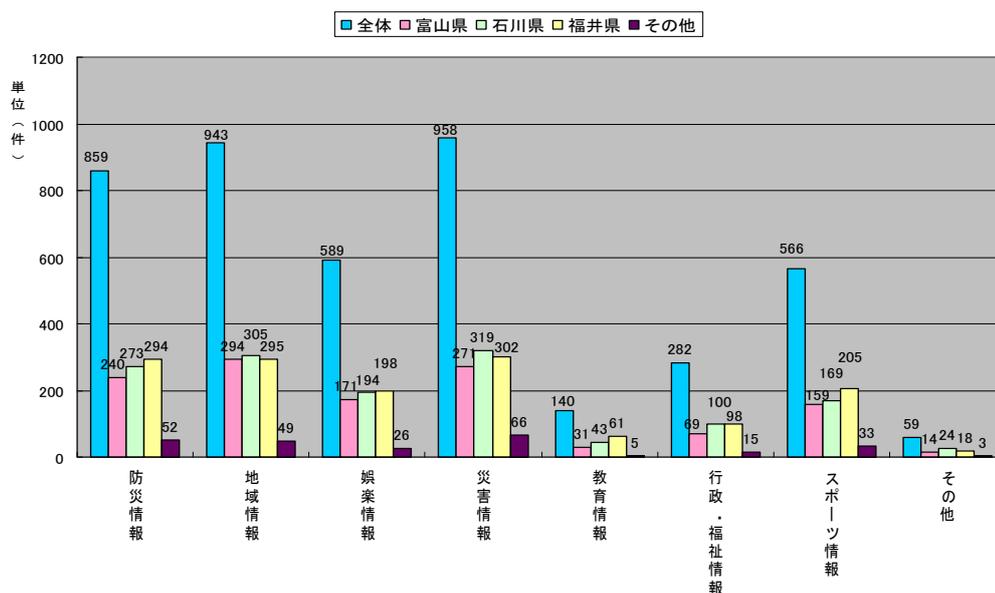


図 4-2 一般視聴者が提供を受けたいと考える情報